

研修機関	医療法人社団勝木会やわたメディカルセンター
研修期間	平成20年10月6日～11月5日
所属・氏名	小松市立栗津小学校 中村 宏紀

I 研修目的

- ・ 企業の基本理念や経営方針などを学び、どのように運営されているかということを経験を通じて学ぶ。医療現場での実情を知ることや医療に対する見識を深めることで、今後の自分自身の考え方に役立てる。
- ・ 色々な世代や体力に応じた健康の保持増進に関わる知識や技術の習得に努める。最先端の研究や考え方を学び、今後の教育活動に生かす。
- ・ 介護支援やお客様とのコミュニケーションを通じて、現場の生の声を聞くことで、高齢な方が本当に必要としていることが何かを学びたい。
- ・ 学校現場を離れて、企業の中に身を置くことで、自分自身の社会性や人間性を磨く。

II 研修内容

1 サービス本部業務部【第1週】

① 総合オリエンテーション

- ア 勝木グループの基本理念、姿勢、組織等
- イ 福利厚生、安全管理、人事部の役割とビジョン等
- ウ 各施設の説明、各施設見学、勝木グループ職員研修体制について

② 総合案内・サービス本部業務・薬剤課

- ア 総合案内業務補助
- イ サービス本部業務手伝い（印刷、封筒詰め込み、宛名シール貼付等）
- ウ 薬剤課（廃棄作業）

③ 心臓リハビリテーション・途中入職者研修

- ア 心臓リハビリテーション業務補助
- イ 心臓リハビリテーション体験
- ウ 心臓病教室（心臓リハビリテーションに通う患者様に対する健康指導）
- エ 途中入職者研修に参加（勝木グループ概要、接遇、職業倫理、個人情報保護、クレーム対応、人事、医療安全等）

④ やわた倶楽部

- ア オリエンテーション（やわた倶楽部の概要等）
- イ ストレッチ運動、頭の面白トレーニング参加
- ウ 体験講座参加

⑤ 用度課（ダスキン・ヘルスケア社）

- ア オリエンテーション
 - ・ 業務内容及び倉庫棚内の物品について
 - ・ SPD システム（人件費・材料費・諸経費の効率化を図るシステム）
- イ 病棟での体験業務
 - ・ 5階病棟への SPD システムに則した物品補充

2 北陸体力科学研究所【第2週～第3週】

① ダイナミック課

- ア オリエンテーション（北体研理念、概要説明、北体研館内案内）

- イ フロントにて業務
 - ・会員カード受け渡し業務、来館されたお客様の対応
- ウ アリーナにて業務
 - ・マシーン説明、業務補助等、会員様とのコミュニケーション等
- エ 清掃
 - ・玄関前のはき掃除、アリーナのマシーン拭き作業
- オ 朝礼参加（勝木グループの基本理念・基本姿勢、北体研の基本方針、接遇の心得の唱和と接遇挨拶の練習）
- カ アリーナにてレッスン参加
 - ・めざましストレッチ、腰痛体操、リズム体操、ボディコンバット、ボディヒーリング参加等
 - ・アリーナにてお客様との交流（ソフトバレー参加）
- キ プール業務（ジュニア水泳スクール監視、補助）
- ク 津幡町事業出向同行（補助、見学）
 - ・体力測定及び介護予防トレーニング補助
- ケ いしかわ総合スポーツセンター見学
 - ・指定管理者制度による北体研の管理施設について
- コ メディカルチェック後の結果カウンセリング見学
- サ 遅番体験、ジュニアスポーツ塾見学、補助

② 健診センター

- ア オリエンテーション（概要、業務内容説明、産業医について）
- イ 健康診断出向同行
- ウ 事務作業（封筒詰め込み作業、健診結果をまとめる作業、インフルエンザ受付データ処理等）
- エ 出向、（歯科検診片付け手伝い）
- オ 健康いろは塾見学（心臓に疾患を持つ会員様に対する運動指導見学）
- カ ドック指導見学

③ 薬剤課

- ア オリエンテーション（薬局の役割、業務、施設説明等）
- イ 病棟にて服薬指導同行、手術室麻薬受け渡し業務同行、製剤作業
- ウ 糖尿病バイキング見学

④ 図書室 サービス本部

- ア オリエンテーション（病院図書室の機能についての説明）
- イ 書籍のデータ入力
- ウ 図書室書籍整理
- エ 地域医療連絡会資料について
- オ フォローアップ研修準備、事務作業手伝い

3 在宅サービス事業部【第4週目】

- ① ア オリエンテーション（在宅サービス事業部の概要、業務内容、施設見学）
- イ ほのぼのヘルパーステーション同行訪問
 - ・清掃作業、お客様とのコミュニケーション等
- ウ 訪問看護ステーションほのぼの
 - ・理学療法士によるリハビリ説明、療養通所介護見学、介護保険関連の説明（居宅介護支援事務所・介護支援センターについて）

- ② デイサービス
 - ア やわたりハビリテーションスタジオ見学、体験（要介護1～5）
 - ・血圧、脈拍、体温の測定、リフト付バスの見学、レクリエーションの準備、補助
 - イ みのり倶楽部しもあわづ みのり倶楽部みつや見学、体験
 - ③ 介護予防通所リハビリセンター
 - ア やわた健康スタジオ見学・体験（要支援1・2）
 - ・体操やレクリエーション体験、食事の様子見学
 - ④ 図書室書籍の整理とデータ入力
- 4 サービス本部事業部【最終週】
- ① やわた倶楽部見学・体験
 - ② 地域医療連携の説明、地域医療連携機関への訪問同行
 - ③ 研修のまとめ

III 研修成果

【接遇意識の高さ】

研修先企業では、朝礼時に接遇心得を唱和したり、接遇委員会を設けて研修機会を持つなど等、接遇に対する高い関心と日々の接遇を大切にしようという企業努力が感じられた。

安心感を与えるか、不安感を与えるかは職員一人ひとりの初対面の印象が大きく影響するという考え方、単に挨拶を上手に行うということではなく、心を込めて接遇していくことが患者様やお客様に心地良いサービスを提供していくことにつながっていくという考え方においてとても共感できた。私は研修を受けている間に様々な課や部署に行かせて頂いたが、どの課、部署においても接遇に対して一貫性のある姿勢を見せて頂いた。具体的に言うと例えば、サービス本部ではどんなに忙しい状況でも電話や来客の応対を一番に考え、ゆとりの気持ちを持つよう心がけるようにしていること。また、在宅サービス事業部やダイナミック課といった一見反対の職場環境においては(どちらも健康の増進を目指しているという意味では、実は同じなのだが)笑顔を大切にすることやお客様の声に耳を傾け、お客様の立場に立って行動することを大切にしていた。ニーズも状況も違う沢山のお客様や患者様を相手に一貫性のある接遇態度で接していくことは、なかなかできるものではない。学校で働く私たち教職員の立場としても、将来社会にでていく子供たちへの教育という意味でも、見習うべき点が多く、まず自分自身が実践していくことから始めたいと思った。

【職員や働く環境を大切にした職場作り】

「人を信じ、人を大切に」する、という基本姿勢の下、職員や働きやすい環境づくりを大切にした企業であることを実感することができた。私は、民間企業なので、利益を追求していくことが研修の中心的話題になることをある程度予想していたが、研修が進むにつれ、中身に必ずといっていい程、職員が働きやすい体制作り、環境作りの話題が盛り込まれていることに気がついた。こうすることによって、職員の負担が減った、効率的に仕事が進められるようになった、といったお話があり、以前はこうだった、このような部分で十分ではなかったといった過去と比べた具体的な話を交えて聞くことができた。管理職を中心に現場の声を聞き、話し合いを重ね、工夫していくことで、より良い運営方法に改善していこうとする姿勢は学校現場でも多いに役立つだろうと思った。また、職場の福利厚生面、安全衛生管理面に対するしっかりした規定はもちろんだが、研修を受ける機会を大切にしていること、人材育成や働き甲斐のある人事制度の確立を目指している考え方など、職員を大切にした職場であることが感じ取れた。

【先々を見据えた経営方針】

今回の研修で私はやわたメディカルセンターがどうして、病院、健康増進施設、介護福祉施設といった複数の施設を併せ持ち、複数の事業を展開する企業なのかということを知ることができた。それは「あなたの健康が私たちの願いです。」という研修先企業の基本理念を掘りさげていくと分かっていくことであった。単に病気になったときに治療する病院ということだけでは理念の追求には届かず、理念を追求していくためには、病気にならない身体作りをしていかなければならないという考え方に行き着くこと。生涯を通じて心身共に健康であり続けるという観点で考えた場合、介護予防も大切であるという考え方。これらを併せて考えていくとどれも繋がりをもち始め、健康というキーワードの基、必然的に必要な施設や事業として生まれたものであるということだった。

そもそも研修先企業は、テーマとして掲げている、癒しの空間の創造、21世紀型の医療の提供ということについて、ビジョンを大きく持ち、先々を見据えた考え方で経営を進めてきた。目先の利益の追求にこだわるのではなく、何年先にはこうなりたいから、こういう風に進めていくという計画を力強く実行して現在に至っている。また、地域医療連携を進めていくことや介護予防に力を入れていること等、これからの医療、高齢化社会に対応できるような広い視野を持った取り組みも行っている。このように将来のビジョンを持って、計画的に、広い視野で運営しようとする考え方は学級経営や学校運営を進めていく上でも参考になることであり、大切なことだと思う。

IV 今後の課題

健康教育に関する意識が高まってきている昨今、私たち教職に携わる者が、病気にならない体作りや生涯を通じて心身共に健康であることをもっともっと意識して教えていくことが必要かもしれない。今回の研修で病気を予防していくためには運動、食事、規則正しい生活、保養といった要素にバランスよく気をつけていくことが大切で、生活習慣の歪みから体の弱い部分にその影響が出て病気が始まることを学んだが、この生活習慣の歪みが起こらないようにする教育が学校教育の中で浸透していけば、かなりの効果が見られるだろうと思った。簡単に生活の歪みを治すといっても、大人になってからでは中々難しいことは知っての通りで、長続きさせるためには、楽しんでという部分が必要になるなど、現実的には厳しい状況がある。しかし、子どもの内に習慣づけてしまえば、当たり前のこととして身につく。知らないことからくる生活の歪みを正すことや正しい習慣づけは早ければ早いほど良いと思われる。

なぜ、運動、食事、規則正しい生活、保養なのかということ子どもたちが納得のいく方法で教えていくこと、健康について考える機会をもち続けていくこと、家庭、地域、教職員といった子どもたちに直接関わる大人たちが生涯を通じて心身共に健康であるということに焦点を当て、学び、子どもたちに積極的に教えていく方策を考えていくことがこれからの大きな課題だと思う。

最後になりましたが、お忙しい中、今回の研修を快く引き受けてくださり、様々な体験を計画的に進めていただいた勝木グループの皆様には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。